



発行人 横山泰賢 編集担当 舘寺規弘
 発行所 SOTO禅インターナショナル事務局
 〒981-1223 宮城県名取市下余田字飯塚563 圓満寺内
 TEL. 022-382-3450 FAX. 022-382-0681
 Email : kikatatedera@gmail.com
 URL : http://www.soto-zen.net/
 郵便振替 00100-6-611195 SOTO禅インターナショナル

2023年
Vol.61

特集 両大本山ワークショップ 仏教講演会「世界の曹洞禅」



S Z I 総会 2023年2月9日 於：大龍寺

巻 頭

ご 挨拶

曹洞宗宗務庁 教化部長 深川 典雄



様々な行動制限があったコロナ禍を経て、人々が従前の日常を取り戻しつつあった令和4年10月に曹洞宗教化部長を拝命し、北アメリカ国際布教100周年・南アメリカ国際布教120周年・ハワイ国際布教120周年記念慶讃法要、各総監部に於いて大本山總持寺開山太祖瑩山紹瑾禪師七百回大遠忌予修法要が勤められるという御年に就任し、わずか1年ではありますが各総監部及び各管内寺院を視察する吉縁に恵まれました。

特に、北アメリカ100周年記念慶護法要では石附周行管長猥下をお迎えし奉修され、参列者各位はこの得難き勝縁に接し、愈々国際布教の機運が囿られたものと確信をしたところであります。

その後、当職はロサンゼルス・サンフランシスコ近郊寺院・禅センターを訪問し、真摯に弁道精進されている姿に接したところであり、各国においては、言語・文化・法律・習慣は違えども曹洞禅の教えは普遍であり、先達の撒かれた曹洞禅の種は、確実に芽吹き成長していることをひしひしと感じ帰国したところであります。

また、ハワイ国際布教総監部における行持に訪布した

折には、山林火災から2ヶ月程が経過したマウイ島ラハイナ被災地を訪れ、同島の満徳寺において慰霊法要を勤めてまいりました。訪布するにあたりSOTO禅インターナショナルを始め各方面からお預かりした義援金をお渡しさせていただきましたことを、紙面をお借りしご報告させていただきます。

この度は、宗門寺院の被災は免れましたとは申せ、日系寺院3ヶ寺が火災に見舞われました。このことを受け、海外の宗門寺院が災害に見舞われたら、宗門はいったい何ができるであろうかと考えさせられたところであります。

世界に展開する曹洞宗にとっても国際的な人材の育成は不可欠であります。今日社会の急速なグローバル化に伴い、日本においても外国語教育は小学校3年生からとなっており、将来、宗門を担う徒弟の中にも必ずや次世代の国際布教師の卵が大勢控えているものと期待をするところであります。

結びとなりますが、今日までに基礎を作ってこられた歴代の国際布教師の皆様方に感謝を申し上げ、今現在、各地で活躍頂いております国際布教師の皆様方には、益々のご活躍を期待申し上げます。 合掌

ご挨拶・北アメリカ国際布教100周年記念法要報告

SZI 会長 よこ やま たい けん 横山 泰賢 (広島県禅昌寺住職)

本年元日に発生しました能登半島地震により、お亡くなりになった方々のご冥福をお祈りし、被災された皆様の安寧な日々が一日でも早く訪れることを祈念いたしております。

さて、およそ4年ぶりに再開されました当会の活動について、ほぼ予定通りに進めることができましたことをご報告申し上げます。これも偏に会員皆様のご理解とご協力によるものと厚く御礼申し上げます。

特に、令和5年8月8日に発生しました山火事により、壊滅的な被害に遭ったアメリカ合衆国ハワイ州マウイ島被災地への緊急救援募金につきましては、別掲報告書の通り多大なるご支援を賜りましたこと、衷心より感謝申し上げます。

今回の緊急支援につきましては、宗門の災害支援制度が国内のみを対象としているため、曹洞宗として海外への十分な支援活動が叶わず、宗務庁教化部国際課よりSZIで支援をしては如何かとのご提案を頂戴し、役員会にて協議し実施させて頂いた次第です。ご支援頂きました救援金につきましては、ハワイ120周年の折に、その一部を南原副会長よりマウイ満徳寺の平沢智樹国際布教師へ手渡し、マウイ仏教協会へ納めて頂きました。最終的にはハワイ国際布教総監部経由にて全額をマウイ仏教協会へ納めさせて頂くことになっております。詳細は報告書をご参照ください。

その他、両大本山ワークショップにつきましては、長崎県皓台寺専門僧堂・国際部講師のハーシュ霊峰師を講師としてお招きし、11月7日に永平寺、8日に總持寺にて開催

されました。「世界の曹洞禅」と題したご講演は、北米や欧州において展開されている曹洞禅の活動について、その特徴や日本との違いなどをお話しされ、相互の交流の大切さを説いた内容でありました。安居僧の皆さんからは、曹洞宗の国際布教へ関心と興味が現れた質問が多く出され、大変有意義なワークショップとなりました。

また、外国籍僧侶活動支援につきましては、多くの皆様から改良服や足袋など、法衣を中心にご支援を賜り、別掲報告の通り日本の専門僧堂へ安居する外国籍僧侶の方への提供が主な内容となりました。ご支援いただきました皆様の温かいご芳志、誠に有り難う御座いました。

昨年は、ハワイ国際布教120周年、南アメリカ国際布教120周年、北アメリカ国際布教100周年の慶讃法要が太祖大師瑩山紹瑾禅師700回大遠忌予修法要と共に各地で厳修されました。別掲報告の通り、各国際布教総監部へはSZIより祝賀をお贈りさせて頂きました。

私は、北アメリカ100周年に随喜させて頂きましたが、長い伝統のないアメリカにおいて、日米の僧俗が協力し一生懸命に日本曹洞宗の伝統を学び、様々な工夫を凝らしながら盛大な法会の準備厳修に励む姿は、正に「一行に遇うては一行を修す」掛け替えのない実践が現成したものでありました。

しかしながら、私が北アメリカに赴任しておりました当時、日本の開教師(当時)から法を受け嗣いだアメリカ人師僧1世の多くから、「すでに法は伝わったのに、今更何れを日本から学ぶのか? 正法はインドから中国へ、そして日本へと伝わったが、その形(法式や儀式)は必ずしも

CONTENTS

▶ 巻 頭	ご挨拶	曹洞宗宗務庁 教化部長 深川 典雄	1
▶ 海外レポート	①ご挨拶・北アメリカ国際布教100周年記念法要報告	SZI 会長 横山 泰賢	2
	②南アメリカ国際布教120周年記念法要報告	元南アメリカ国際布教師・静岡県増善寺住職 黒澤 慈典	4
	③ハワイ国際布教120周年記念法要報告	SZI 副会長 南原 一貴	6
▶ 特 集	両大本山ワークショップ仏教講演会抄録		
	世界の曹洞禅	皓臺寺専門僧堂侍者兼国際部講師・山口県祥雲寺住職 ハーシュ霊峰	7
	両大本山ワークショップアンケート報告		9
▶ 法衣支援活動報告・寄付者芳名録・法衣支援活動活用者アンケート報告			11
▶ 動静報告			12
▶ マウイ救援募金報告・寄付者芳名録			13
▶ SZI express 会費納入者・賛助金納入者名簿			14
▶ SOTO 禅インターナショナル総会のお知らせ			15



同じではないのに、何故日本の形や制度に従う必要があるのか」と度々聞かされ反発を受けたことが思い出されます。

なかでも「達磨大師より伝わった中国の禅は、祖師たちがお示しのように、後に五家七宗となっている。恐らくアメリカの曹洞禅もそのようになるだろう。」と言われたことが今でも忘れられません。確かに、この度の100周年には、北アメリカの三大曹洞禅サンガといわれる寺院の実質的な住職は、一人も参加されておりませんでした。むしろ私の赴任当初から親日であったアメリカ人僧2世とそのお弟子さん達为中心でありました。アメリカにおいては、伝統を重んじそれを何世代にも亘って継承することがとても難しく、基本的には夫々の世代で完結され、また次の世代が自らの観念や価値観を確立していくという国民性であります。そこにアメリカの云う自由の精神があり、この自由の精神が次の世代へ継承されて行く社会であります。そのようなアメリカに於ける宗門の国際布教が、今後どのように展開されていくのか、大きな課題であると感じました。

日本の宗門でも海外においても、個々の見方によって円く見えたり四角く見えたりするものですが、実際には円いわけでも四角いわけでもなく、様々な形や性質があるのだと思います。我々が生きるこの世界全てに数え切れない側面と性質があり、自分が学び経験した範囲だけで理解し判断しようとするのではなく、他にも無限の世界があることを知るべきでしょう。これは自己の外界においてだけのことでなく、私たち自身の足元においても同じでありましょう。

そこを高祖大師道元禅師さまは、「自己の身心に法が未だ浸透していない時には、法は満ち足りていると思ってしまふ。法がもし身心に充足すれば、なにかが足りないと思うのである。」とお示しになっておられます。

SOTO禅インターナショナルの活動が国内のみに留まらず、世界各地域へ敷衍されるべく、謙虚な姿勢で歩んで参りますので、何卒引き続きご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます、ご挨拶とさせていただきます。

合掌

… 海外レポート② …

南アメリカ国際布教120周年記念法要報告

くろ さわ じ てん
黒 澤 慈 典 (元南アメリカ国際布教師・静岡県増善寺住職)

8月25日 「SDGsと曹洞宗」 各国際布教師のディスカッション



8月26日 120周年慶祝大般若転読

令和5年は曹洞宗の南アメリカでの布教が始まってから120周年を迎えました。8月25日から27日にかけてペルー共和国の首都リマ市にあります日秘文化会館と、カニエテ市にある慈恩寺にて記念法要が執り行われました。

この度の行事には、南米各国の国際布教師をはじめ、北アメリカ、ハワイ、ヨーロッパの各国際布教総監部と曹洞宗国際センターより、そして曹洞宗宗務庁をはじめ日本からの有志の皆様など、総勢約40名の宗侶の随喜があり、現地の皆様とともに法要等の行事が行われました。

宗門の南アメリカにおける布教は、1903年(明治36年)にペルーに渡られた上野泰庵師によって始められました。上野師は日本からの初期移民と共に、大変過酷な状況の中で、1907年に南米最古の仏教寺院である「泰平山慈恩寺」を開創され、その法灯が120年間に渡り護持され続けてきました。

この度は数年ぶりにリマを訪れましたが、この時季にしては少し暑さを感じました。例年8月のリマの気温は10度前半と肌寒さを感じるはずでした。

8月25日、記念法要当日は午後2時より受付が開始され、2時30分より南アメリカ国際布教師・森岡慈春師による「禅と茶道」をテーマとした法話が行われました。法話はスペイン語と、森岡師自身による日本語での解説がなされました。

その他に、裏千家淡交会による茶会が行われ、随喜僧侶が招かれました。併せまして南アメリカ国際布教師をはじめとする各地域の国際布教師によるシンポジウムが行われました。「SDGsと曹洞宗」をテーマとしてパネルディスカッションが行われました。主にスペイン語、ポルトガル語、英語でおこなわれ、各国際布教師の布教活動の日常と、それぞれの取り組みに関する討論が行われました。更には「南アメリカ曹洞宗の未来」を主題とした宗門布教に関するシンポジウムが開かれ、こちらも南アメリカ国際布教師が主たるパネリストとなりディスカッションが行われました。

また、記念俳句集『セロアズール』(日本語訳「青い山脈」)出版記念式典が行われました。ブラジル・サンパウロ仏心寺の僧侶である半田慈照師による俳句についての講演がなされ、参加者は俳句作りを行いました。作られた俳句はスペイン語、ポルトガル語によって発表されました。

翌日26日は、午後3時より会場である日秘文化会館で受付が開始され、4時より大本山總持寺副監院兼尚事・廣澤道秀老師をご導師に「慶祝転読大般若」が修行されました。

続いて大本山永平寺副監院兼典座・西村眞典老師をご導師に「南アメリカ国際布教物故者諷経」が修行され、最後に曹洞宗宗務庁教化部長・深川典雄老師のご導師のも



8月25日 俳句集「セロアズール」出版記念式典



8月27日 慈恩寺での法要



8月27日 慈恩寺での法要



8月27日 カサブランカ墓地



8月27日 カサブランカ墓地



8月27日 慈恩寺での法要



8月27日 慈恩寺開山堂

と「南アメリカ国際布教120周年記念慶讃法要」が厳修されました。これらの法要は、ほとんどが現地の南アメリカ国際布教師が配役にあたり修行されました。特にご詠歌は、ブラジル人尼僧によって奉詠され、会場全体に鈴と唱和が美しく響き渡りました。

法要後の晩餐会では、清野暢邦南アメリカ国際布教総監老師、片山和之ペルー共和国駐劄日本国特命全権大使のご挨拶に始まり、余興等が催されるなどして参加者の親睦が深まりました。

3日目の27日は、慈恩寺での法要のためリマより南へ160キロほど離れたカニエテへ参りました。まずカニエテの手前に位置するカサブランカ墓地へと向かい、大本山總持寺国際室主事・松田英寿老師の導師のもと詣塔諷経が行われました。在ペルー日本国大使館の高橋領事をはじめ、ペルー日系人協会の方々や現地在住日本人等の多くの参列がありました。

このカサブランカ墓地は、初期の日本人移民殉難者が眠る墓地です。墓参後は、カニエテ市郊外に位置するサンヴィンセンテ・デ・カニエテ墓地へ移動し、宗務庁教化部国際課長・大島康晴老師の導師のもと詣塔諷経が行われ



8月27日 サンヴィンセンテ墓地



8月27日 慈恩寺での法要

ました。こちらは地元の公営墓地の雰囲気ですが、ここにも多くの日本人移民が眠られています。

墓参供養の後、慈恩寺に到着し、最初に「佛垂般涅槃略説教誡経巻物」贈呈式が行われ、引き続いて裏千家淡交会による献茶式が行われました。

その後、南アメリカ国際布教総監・清野暢邦老師のご導師のもとに「慈恩寺開山歴住報恩諷経」が修行されました。引き続いて、大城仙芳南アメリカ国際布教師を導師に「盂蘭盆施食会」が修行され、長年に渡り慈恩寺を護持された日系人先祖代々精霊に回向し、参拝者は心を込めて焼香をしていました。

法要後には、宗務庁教化部長・深川典雄老師より、慈恩寺を護り続けてこられたカニエテ日系人協会会長への感謝状が贈られました。今後も末永く慈恩寺の寺門興隆を祈念する瞬間でした。最後に来賓の方々の挨拶と、カニエテ日系人協会の方々の手作りによる昼餐会が行われました。

翌28日からは、現地の国際布教師によるペルー北部地域の日系人への巡回慰霊法要が行われました。

私は以前、南アメリカ国際布教師の拝命しブラジルに赴任致しておりましたが、その間にペルーにおいて、南アメリカ国際布教100周年と110周年の2回の記念行事に関わる機会がありました。次回の行事に参加できるかわかりませんが、在任中よりペルーは私にとって思い出深い場所でしたので、今後とも宗門の布教が更に根を伸ばしてゆくことを心より祈念致しております。

ハワイ国際布教120周年記念法要報告

S Z I 副会長 なん ばら いっ き 南 原 一 貴 (静岡県医王寺住職)

2023年10月22日、ハワイ国際布教120周年記念法要がホノルル市の両大本山布哇別院正法寺において開催されました。また、大本山總持寺開山太祖瑩山紹瑾禪師700回大遠忌予修法要があわせて執り行われ、特為献湯諷經は可睡齋専門僧堂三浦信孝後堂老師が、献供出班焼法要は深川典雄教化部長がそれぞれ導師をお勤めになりました。

ハワイにおける曹洞宗の布教は1903(明治36)年までさかのぼります。広島県出身の河原仙英師が同胞慰問のため、3月7日に神戸をコレア号にて出航し、3月20日にホノルルに上陸しました。5月24日にはワイパフ耕地において第1回目の教筵を開かれ、その後各所において熱心に演法布教し、禅味のある法話は、多くの聴衆に感動を与えたと伝わっています。同じく広島県出身の菅良雲師が同年にハワイに到着したという説がありますが、乗船名簿を確認したところ、菅師は1904(明治37)年2月18日にドリック号でホノルルに到着していることがわかりました。また、外国旅券下付表の記録によると、明治36(1903)年12月18日に旅券が下付されていることや、『宗報』に明治37(1904)年にハワイへ渡航したとの記事がみられることから、菅師の渡航は1904(明治37)年であるといえるでしょう。

記念行事にあたり、日本からはかつて正法寺にて開教師(当時)としてご活躍された西沢応人師をはじめ、複数の青年僧侶が事前にホノルルへと到着し、法堂の準備などを整えられていました。また静岡県可睡齋からは梅花講の皆さまが参加され、現地の梅花講員の方がたと一緒にお唱えをされました。各地域の国際布教総監部や国際センターの役職員による加担もありました。

記念法要ではハワイに所在する各寺院のメンバーの代表が参列し、ともに120周年をお祝いしました。法要に



先立って、ハワイ曹洞宗寺院連盟(Hawaii Soto Mission Association)の会議が開催され、講演では「ハワイ国際布教120周年について」をテーマに、ゴッドウィン建仁国際センター所長が海外における曹洞宗の教えの広がりについて、スライドを用いてお話され、参加者は禅センターの活動などに興味深く聞き入っていました。

同日に修行されたハワイ国際布教師・檀信徒物故者諷經は、駒形宗彦ハワイ国際布教総監が導師をお勤めになりました。読經中の参列焼香では、それぞれが先人たちの労苦を偲び、想いを馳せました。120周年記念慶讃法要はゴッドウィン建仁国際センター所長が導師をお勤めし、英語で法語を読まれ、これまで積み重ねられた功績に感謝し、今後益々の発展を祈念されました。最後に正法寺の正面において記念撮影があり、記念行事は無事円成いたしました。

このような記念行事は、その場所における歴史を振り返り、これから未来へとたしかな歩みを進めるための良い機縁ともなりましょう。2028年に迎える125周年に向けて、更なる発展を願うとともに、本行事にご加担いただきました皆さまのご尽力に感謝申し上げます。

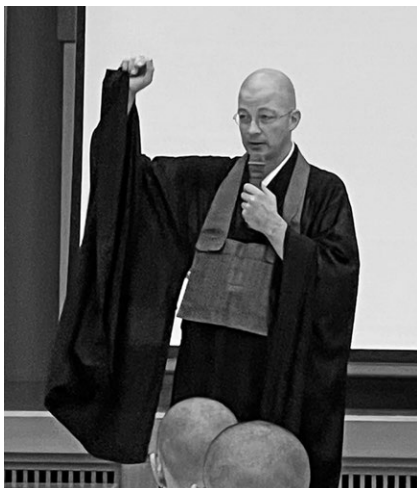


特集 両大本山ワークショップ仏教講演会抄録

[2023年11月7日(火) 於 大本山永平寺 / 11月8日(水) 於 大本山總持寺]

世界の曹洞禅

講師 ハーシュ ^{れいほう} 靈峰 (皓臺寺専門僧堂侍者兼国際部講師・山口県祥雲寺住職)



講師のハーシュ靈峰師

講師プロフィール

1973(昭和48)年、米国生まれ。ルイジアナ州ニューオーリンズ大学卒業(哲学・英文学)。10代の頃より参禅をはじめ、米国や欧州各地の禅センター等で参禅修行を重ねる。

2005(平成17)年3月、スイス無畏城寺国際布教師ポベイ密仙師の得度を受けて後、聖護寺(熊本県)や永光寺(石川県)で開設された宗立専門僧堂に計3回安居。その後、瑞應寺専門僧堂、大本山永平寺本山僧堂、皓臺寺専門僧堂にて安居修行。

2015(平成27)年9月、現長崎県皓臺寺住職齋藤芳寛師より伝法。曹洞宗師家養成所満期修了。

大法輪閣刊行「To You(原題:禅に開け 澤木興道著)」、大本山永平寺刊行「TenzoKyokun(典座教訓)」ほか、多くの書籍等の英仏翻訳事業に携わる。また、海外で開催された多くの宗門行事にて講師や通訳を務める。

みなさん、こんばんは。

大本山永平寺において、SOTO禅インターナショナルが主催するワークショップの講師を務めることはとても光栄なことです。私も永平寺で修行をし、送迎してから何度か来ることがありましたが、今回送迎後初めて接賓に上がってきて、色々な気持ちを感じることができました。

衆寮の時はこの衆寮講堂の床を雑巾で拭いたことや、堂行寮の厳しい指導など、安居中は大変かもしれませんが送迎して何年か経てば、その厳しい修行もいい思い出となります。皆さんも修行が大変と感じるときもあるかと思いますが、今は頑張ってください。ここで修行できることは本当にありがたいことです。

今日は皆さんの貴重な時間をいただき、曹洞宗の国際布教活動について少しお話ししたいと思います。曹洞禅

は日本だけではなく、今ではハワイ、南アメリカ、北アメリカ、そしてヨーロッパと世界で活動が展開されています。それはすごく大事なことだと思いますので、紹介したいと思います。長い話になるかと思いますが、どうぞ足を楽にしてください。坐蒲を使ってもらってもかまいません。

いま曹洞禅はインターナショナルに展開されており、世界中に多くのお寺や禅センターがあり、多くの参禅者と僧侶がいます。これはすごいことです。私ももちろんこのかたがた全員と会ったことはないですし、すべてのお寺や禅センターに行ったこともありません。経験はまだ浅いですが、皆さんにただ少しご紹介したいと思います。

今の衆衆の中で、海外で修行した事のある方々は少ないと思います。近年は新型コロナの影響で実施できませんでした。私と同安居のかたや先輩は、本山から海外研修として北アメリカやヨーロッパ、南アメリカへ行きました。その研修の後、報告会をするのですが、多くの衆衆が行きたがっていました。

正式な海外研修ではなくとも、そのような機会を作ることにはできるかもしれません。私の一年先輩は安居中に行くことはできませんでしたが、永平寺を送迎してから自分で3カ月間いろいろなところに行きました。その経験や体験はすごく大事なことだと思います。もし、今日の私の話を聞いて、そのように行きたい気持ちになったら、すごくありがたいです。

よく「なぜ外国人の方が曹洞宗のお坊さんになったの?」「なぜ大本山永平寺で修行することになったの?」とよく聞かれました。自分の話は面白いと思いませんが、普通の外国人の入道の動機の一つです。道を探しました、ということです。

今私は50歳ですが、参禅し始めたのは16歳ぐらいの時です。あのときは、私にとってすごく困難な時でした。みなさんの中にもあのぐらいの歳でそのような困難したかたがいらっしゃるでしょう。いろいろ苦しみもありました。疑問もありました。この人生をどうしよう、どの道、どの仕事、どんなことをすればいいのかサッパリとわからなかった。家族にもいろいろ問題がありました。友だち同士ではさらにありました。悪い考えを持つこともありました。家を飛び出すことも考えました。自殺までも考えました。

そして、これらの疑問に本当に答えてくれる人は私の周りにはいないように思えたので、本に頼った。いっぱい

読みました。哲学や文学、特に宗教学の本を探しました。キリスト教やイスラム教、仏教、ヒンズー教など色々学んでも、疑念を晴らすものは何もない。

でもその中で1冊、坐禅指導が入った本がありました。結構簡単な内容の坐禅指導で、イラストも入っていました。『普勧坐禅儀』も載っていました。やってみようと思いました。自分の部屋で毛布を畳んで坐蒲の代わりにして壁に向かって坐りました。姿勢・呼吸・心を整えました…

そして5分もしないうちに、「これが最高の道だ」と完全に確信した。自由自在のスペースがありました。そんな時間がありました。初めて現実を垣間見たようだった。あの日から毎日、坐禅を続けました。

19歳の時に師匠に出会いました。弟子丸泰仙老師の弟子のリビングストーン靈敏老師でした。ルイジアナ州のニューオーリンズのお寺に住み込みで修行することになり、日々の坐禅と作務が数年間続いて、そして得度もしました。

海外のお寺と日本のお寺か禅センターはかなり違います。活動の中心は坐禅です。法要が少ない、決まった作法が少ないですが、朝の坐禅も夜の坐禅はメインです。一般のかたがたは街から来て、坐禅を組んで、心経を読んで、そしてその後に仕事や家族や学校に行きます。僧堂生活でもないし、一般の生活でもない、中道の道でした。

5年ほど経った時、ちょっとこの禅センターのルーツを探したいと思うようになりました。でも「ルーツ」というはまだ日本ではなく、最初にフランスに行くことにしました。師匠の師匠、弟子丸老師は昭和42年に日本からフランスへ行きました。フランスで坐禅指導をし、何百もの禅道場を創設し、何十冊の本を書いて、何百人に授戒と得度を授けて、そしてヨーロッパの最初のお寺の禅道尼苑をフランスで創設しました。あのお寺に行きたかったのです。

そこは摂心中心のお寺です。特に夏には60日間の安居を行います。世界のいろいろな国から多くの人々が集まって、6回の10日間ほどの摂心もあります。その時は300人を超える人たちが参加していました。若い人も多かったです。毎日九炷ぐらい坐禅をしました。作務もちろんありました。またパーティーを開催することもありました。厳

しさと楽しさのバランスがよかったです。

その頃、師匠の兄弟弟子、スイス人のボベイ密仙老師のチューリッヒ道場に参りまして、15年修行いたしました。師匠が平成21年に亡くなったその一年後、またルーツを探しようと思いました。今回は日本へ。

あの時、熊本県の大智禅師が開山された聖護寺というお寺で、曹洞宗宗務庁が主催する外国人のための宗立専門僧堂が開設されることになり、そこに参加しました。そこではもうほんとに素晴らしい、今まで欧米の修行では体験してこなかったことがいっぱいありました。

例えば、欧米では坐禅をよくしますが、私にはそれ以外ではおろそかになっていることが多くありました。もちろん、宗門の修行の中心は坐禅ですが、坐禅を大事にして、他の行持を無視することは間違っています。

法要やその進退もちろん、でも東司の使い方も、スリッパの脱ぎ方も、お経を読むときの姿勢も、実際に体験する機会は少なかったのです。あの安居で、全ての行持の重要性も少しわかり始めました。

私は、絶対にこの僧堂のような行持を続けたいと感じ、あの宗立専門僧堂の堂長老師をお勤めになられた齋藤芳寛老師の弟子になりました。

その後、瑞應寺と永平寺に安居し、そして皓臺寺で安居をし、今は皓臺寺において国際部布教講師として務めています。皓臺寺も外国人の安居者を受け付けています。

私の話だけでちょっと長くなりましたが、ここで、見ていただきたい動画があります。曹洞宗宗務庁が興味深い動画を作りました。これは、海外における曹洞宗の国際布教の歴史や状況がよくわかる内容になっていて、私の話よりイメージがしやすいですし、実際の活動を見ると面白いと思います。まずはヨーロッパの動画を紹介します。

(動画視聴:禅の種をまくーヨーロッパ曹洞宗の半世紀ーhttps://www.youtube.com/watch?v=_G8nxPKTOck)

これを見てもらってわかるかと思いますが、日本と比べるとかなり違います。反対に、皓臺寺に海外から安居するために来た方々からは「全然違います」とよく聞きます。もちろん形は違いますし、日々の差定も違います、文化・考えかたも違います。時には、その違いから問題が生じることもあるが、それ以上に重要なのは、一緒に修行することの利点だと思います。

例外も多いですが、だいたい国によって長所と短所がたまにあります。だから互いに学ぶ機会もあります。例えば、毎日、四・九日でも夜坐をする外国人の安居者が多いです。空いている時間にも坐禅をする人もいます。これはある日本人の安居者にいい刺激になっていると思います。逆に、日本人は集団として機能し、空気を読み、我を忘れるのが得意である。我々外国人の修行僧として勉強になります。



一人の安居者の話をします。私の先輩で永平寺に安居した日本人のかたです。山門に立っている時、本当に上りたくなかった。涙も流していました。安居するのが嫌でした。でも仕方がなく上山し、そして修行をし、公務をこなしました。段々と最初の感情を忘れていき、ただ脱落してやるべきことをやりました。数年が経ち、素晴らしいお坊さんになりました。

興味があるなしではなく、好き嫌いでもなく、やるべきことをやる。別の道にも行きたい、こんなこともしたいという思いがあったかもしれない。最初から道心がなくても、師寮寺のため、師匠のため、檀信徒のために自分の感情を抑え、ただやるべきことをやる。段々自然に道心が発することもあります。

もう一本見ていただきたいと思います。次は北アメリカの状況です。

(動画視聴:北アメリカ曹洞宗のあゆみ

<https://www.youtube.com/watch?v=bH3SegkPAIc>)

北アメリカの曹洞禅の布教はまず日本人の移民の方々のためでした。だから最初は、ほとんど日本と同じようなシステムのお寺を作りました。南アメリカやハワイも同じような感じで布教が始まりました。その後、先の話の禅センターの形になった所が多く出来ました。

最後の話ですが、私が永平寺に安居した時、参拝に来たかたたちの中には、外国人の雲水を見かけびっくりします。たまに指差して、「外人！ 外人のお坊さん」と言っているのをよく聞きました。そして「どこから来られまし

たか?」、「お国はどこですか?」などによく聞かれました。答えに困りました。アメリカ生まれですが、アメリカを出て25年くらい経ち、アメリカ人と言わない。そして、スイスのパスポートも持っていますが、スイス人でもない。もちろん日本人でもありません。

私の師匠はよく私たちに、「仏国人」と言われます。良い言葉だと思います。結局、我々僧侶みんな仏国人です。国は違っても、同じは「南無帰依佛、南無帰依法、南無帰依僧」と誓い、両祖様の教えに従い、修行が人生の中心になるようにするものです。これはとても大切なことです。

みなさんご清聴ありがとうございました。

(事務局より:本稿は2023年11月7日に大本山永平寺で行われたワークショップの録音をもとに趣意を損ねることないよう編集し、発表者に了承を得たものです。)

※ワークショップ中に視聴した動画は曹洞宗において作成されたもので、インターネットにてどなたでも視聴できますのでどうぞご覧下さい。



動画は↑のQRコードより視聴できます。

参加者アンケート内容 (抜粋)

大本山永平寺

(安居年数 出身地 1. 講演を聴講して感じたこと 2. 曹洞宗の国際布教について感じたこと)

- | | | |
|---|---|---|
| <p>(1) 1年目 和歌山県</p> <p>1. 仏教が少数派のアメリカや南米でも布教活動が行われていることに驚いた。人種や様々な違いがあっても禅そのものが世界に共通していると実感した。</p> <p>2. 日本で布教する僧侶として「世界で信仰されている宗教」であるという自信が持てると感じた。</p> <p>(2) 1年目 長野県</p> <p>1. 永平寺の僧堂しか知らないのによく分からないが、日本より海外の禅センターの方が、坐禅に対して真面目に向き合っているように感じられた。</p> <p>2. 海外の禅センターの典座寮では、どのようなことに気を遣って、どんな食事を作っているのか知りたいと思った。</p> <p>(3) 1年目 岐阜県</p> <p>1. 茶道、華道などの文化や伝統芸能を通して禅を布教している事に興味を持った。</p> <p>2. 坐禅の他に、諷経や法要などの部分があるのよう布教され、どのように海外の</p> | <p>人々が感じているのかについて知りたいと思う。</p> <p>(4) 1年目 長崎県</p> <p>1. 国際布教について初めて知った。海外の活動に目を向けることで、我々の知らなかった世界が広がって、安居や僧侶としての活動が活発になると思う。</p> <p>2. 世界各地で幅広い布教教化が行われている様に、我々の布教教化も様々なアプローチができるのではないかとと思う。</p> <p>(5) 1年目 北海道</p> <p>1. 世界各国に何百もの禅センターが建てられるほど、禅は海外の人の興味を引くものなのだと感じた。</p> <p>2. 多くの人が集まるほどの魅力ある海外の道場に行ってみたいと思った。</p> <p>(6) 1年目 長野県</p> <p>1. 外国人としての目線から、好き嫌いでなくやるべき事をするのが日本人修行僧の素晴らしいところである、とおっしゃっていたのが印象に残った。</p> | <p>2. 日本の禅を広めることで、海外の禅が逆輸入されてくる。その相乗効果はとても良いことだと思うので、曹洞宗僧侶として国際布教にも力を入れたい。</p> <p>(7) 1年目 北海道</p> <p>1. 初期の方々が、禅という概念を他国の人間に伝えるのは非常に難しかっただろうと感心した。そのような日本の禅僧が、海外の人々から厚い支持があったということが印象的だった。</p> <p>2. 今回の動画等で、宗門の国際布教に対する妥協のなさを感じた。英会話経験もあるので、国際布教への興味も増した。</p> <p>(8) 1年目 愛媛県</p> <p>1. 海外で曹洞禅が受け入れられていることは知っていたが、自分の想像より規模が大きくて驚いた。</p> <p>(9) 1年目 愛知県</p> <p>1. 自分の想像以上に世界では曹洞禅が広まっていることに驚きを感じた。今回の講演は良い学びとなった。</p> |
|---|---|---|

- (10) 1年目 東京都
 1. 布教ということにおいて何が大切かを気づかされた。押しつけでなく、文化や時代に合わせ、色々なことを教えられる柔軟な人になりたいと感じた。
 2. 国際布教で禪の教えが世界に広がっていることがうれしく感じた。
- (11) 1年目 静岡県
 1. 自分も海外の方とふれあえるよう少しずつ英語にも取り組んでいきたいと感じた。
 2. 送行したら少しでも力になれるよう努力していきたい。
- (12) 1年目 千葉県
 1. 欧米の方々の考え方等を取り入れることで、仏教、禪の幅が広がるように感じた。
 2. 海外の様子から、「伝える」「発信する」といったアクションがいかに大切かを実感した。
- (13) 1年目 福岡県
 1. 自分の想像以上に曹洞禪が根付いていることに驚き、何よりまず現地を経験してみたいと感じた。
- (14) 2年目 新潟県
 1. これから先は、さらに海外での活動が活発になると思う。また外国人僧侶から逆輸入の形で新しく学ぶことも出てくると思う。
 2. これまでに布教を志した僧侶の熱心な思いが、その活動を通して現地の人々に届いたことが一番大きいと感じた。現地を経験してみたいと思った。
- (15) 2年目 愛媛県
 1. 欧米に広まった曹洞禪は、強い信念を持つ僧侶によって芽吹いてきたことを初めて知った。もっと勉強していきたいと思った。
 2. 本山にも多くの海外の方が来られるので、言葉の壁はあるがもっと熱量を持って参学していきたい。
- (16) 2年目 秋田県
 1. 私たちの活動も、将来的にグローバルな交流は不可欠であるし、自分も大変興味深い分野だったので、有り難い貴重な機会となった。
 2. 各地域の土地柄に根ざした、それぞれ異なる僧堂のあり方などで曹洞禪が浸透していることを感じた。
- (17) 2年目 東京都
 1. 禪の教えは、どの時代のどの国でも求められる可能性があるのだと思った。日本国内の問題点を、国際布教を通して考えるべきと思った。
 2. 曹洞禪の国際布教を通して、世界情勢が改善され平和に近づくと思った。
- (18) 2年目 愛知県
 1. 海外の寺院等では、地域の方々と交流するイベントが多くあり、それを通して人々に影響を与えているのだと思った。
 2. 地域と交流を図るイベントなどは日本国内でも積極的に行うべきだと感じた。
- (19) 3年目 神奈川県
 1. 海外の僧侶は坐禅や法要を学ぶ以外に、生活のための仕事も行っている。日々の私達の行持がいかに恵まれていて有り難いことなのか、またそれが他国の方々からどのように見られるのか、これらを考えながら安居していこうと思う。
- (20) 3年目 東京都
 1. 海外に禪が伝わり、今でも多くの方が教えに親しんでいる事はとてもすごいと思った。禪の教えが本物であることの証拠であると感じた。
 2. 海外のことは未経験ながら、少しでも広まるよう努めていきたいと感じた。
- (21) 3年目 山梨県
 1. ハーシュ霊峰師の道を求める姿勢が素晴らしいと感じた。私もこのぐらい積極的に学ぶ姿勢を持たねばと思った。
 2. 本山にも海外からの修行僧が多く来てほしいと感じた。
- (22) 3年目 栃木県
 1. 仏教が盛んではない国での布教の様相を、講義と映像で学べたことが非常に勉強になった。
 2. アメリカの禅センター等に見られるように、同じ場所で僧侶や老若男女を問わず修行生活を送ることは、禪の生活がより身近なものになって親しみやすくなるのではないかと感じた。
- (23) 3年目 福井県
 1. 自分も海外の修行者のように、真剣さをもっと持たねばと思った。
 2. 海外での坐禅布教の様子を見て、仏教が衰えてはいないと感じた。

大本山總持寺

(安居年数 出身地 1. 講演を聴講して感じたこと 2. 曹洞宗の国際布教について感じたこと)

- (1) 1年目 宮城県
 1. ビデオなど見せていただき、とても分かりやすく「世界の曹洞禪」を知る良い機会となった。
 2. 曹洞宗の教えが世界の人々に知ってもらえることは、僧侶である私自身とてもうれしく思った。
- (2) 1年目 青森県
 1. 海外に布教するという事は、仏教単体だけでなく日本文化も含めて布教することというのは、過去のキリスト教が日本等に入ってきた当時ととても近い形なのかと感じた。
 2. 日本の僧堂修行等に外国語学習を取り入れてゆけば、国際布教により関心が集まると思う。
- (3) 1年目 岩手県
 1. 私の師匠も海外の僧堂に研修に行っていたので、私も機会があればイタリアやブラジルの僧堂で研修してみたい。
 2. とても興味があるので、何かしらの形で関われば嬉しい。
- (4) 1年目 秋田県
 1. 現在の日本における曹洞宗僧侶と、禪に対する取り組み方が違うと感じた。
 2. 効果を期待する坐禅のように感じた。ただ関心を持ってもらわなければ出会いもない。檀家さんとの関係など再考してゆきたい。
- (5) 1年目 山形県
 1. 同じ曹洞宗でも、様々な観点や考え方があり興味深かった。
 2. 700回大遠忌に向けて国際布教に力を入れることができていていると思う。
- (6) 2年目 滋賀県
 1. 海外の映像を見て、普通に修行ができることに感謝を忘れずにいたいと思った。
 2. 文化も生活も違うと思うが、それに関わらず曹洞宗の禪が全世界に広がっていることがすごいと感じた。
- (7) 3年目 山形県
 1. 曹洞宗の教えが正しく伝わることも大事だが、それぞれの国の文化や習慣も含みつつの姿の禪もあると感じた。
 2. まだ知らないことも多いので、これからも国際布教に関心を持って学びたい。
- (8) 3年目 神奈川県
 1. これまで外国に仏教が広まったことに疑問を感じることはあったが、今回の研修で解決したので、今後の生活に役立てられたらと思う。
 2. 言語だけでなく、仏教文化や歴史も理解していないと国際布教師は難しいのではないと感じた。

※ハーシュ霊峰師が講演の中で使用した曹洞宗の国際布教に関する動画は、YouTubeにてどなたでも視聴できますので是非ご覧下さい。QRコードを読み込むことでその他の動画も閲覧できます。



S Z I 外国籍僧侶支援事業(法衣支援)ご報告

今年度より開始いたしました外国籍僧侶支援事業(法衣支援)は、国内各寺院で使われていない法衣類を活用して、国内外で志を持って修行しているが、経済的に大変な外国籍の僧侶を物品支援という形で支えようという事業です。

今年度、会員皆様にご協力依頼文をお送りしましたところ、沢山の方々より支援の法衣類をご提供いただきました。皆様のご協力に心より感謝申し上げます。

ご提供いただきました法衣類は、事務局にて整理をして種類やサイズ等を明記したリストを作成し、国内専門僧堂に活用のご案内をお送りしましたところ、多くの皆様より活用希望のご依頼をいただきました。事務局にてご要望に添うよう物品の調整を行い、ご依頼いただいた各僧堂に発送致しました。

発送致しました各僧堂の安居者の皆様には、匿名でのアンケートにご協力いただきましたので、一部を要約して掲載させていただきます。

今後の本事業につきましては、このような国内専門僧堂安居者への支援の継続とともに、曹洞宗国際センター及び宗務庁SDGs推進委員会での支援事業「届けプロジェクト」と共同し、海外の禅センター等の宗門僧侶への法衣支援活動にもご協力させていただきたいと計画しております。

会員皆様におかれましては、多大なるご支援に感謝申し上げますとともに、今後とも本事業にご理解ご協力をいただきますようお願い申し上げます。ご報告に代えさせていただきます。



外国籍僧侶法衣支援事業寄付者ご芳名

愛知県 永澤寺 岡島典文	新潟県 庄川寺 菊地大英	静岡県 内山温子	宮城県 輪王寺 日置道隆
北海道 大休寺 永井皓純	新潟県 満光寺 高橋英寛	北海道 興禪寺 太田広康	(敬称略)
栃木県 松林寺 堀江眞澄	山形県 洞松寺 小野卓也	福岡県 安国寺内 松崎祐徳	
新潟県 智泉院 西方一成	埼玉県 円通庵 大場満洋	北海道 興禪寺 太田広康(2回目)	

法衣支援活用者アンケート内容（抜粋要約）

1. 性別 2. 年齢 3. 出身国 4. 曹洞宗の僧侶となったきっかけ 5. この支援事業へのメッセージ

- (1) 1. 男性 2. 50代 3. 英国 4. 子供の頃から宗教的なことに興味がありました。英国国内にて参禅者としての数年の経験と、参禅道場を運営していたので、僧侶になることを選びました。 5. このプロジェクトは先駆的なすばらしい試みです。どうもありがとうございました。
- (2) 1. 女性 2. 60代以上 3. スロベニア 4. 自分が人生の中で最も辛いときに曹洞禅と出会い、救われました。私は50才を過ぎていましたが、この道に進みました。 5. ご寄付してくれた皆様に感謝します。なかなか見つからなかった小さいサイズのものが高価で、本当にありがたいことでした。
- (3) 1. 男性 2. 50代 3. キューバ 4. 仏陀の教えに導かれた。 5. 皆様の私たちへのご支援に、心より感謝申し上げます。
- (4) 1. 女性 2. 50代 3. キューバ 4. 坐禅をして仏陀の教えを学んでいるうちに、僧侶になることを選んだ。 5. 私はこの場所で修行させてもらっていることに感謝しています。とても素晴らしい経験です。
- (5) 1. 男性 2. 30代 3. ブラジル 4. 法要儀式に興味があった。 5. この取組みは素晴らしいと思う。もっと曹洞宗に多くの外国出身者が増えれば良いと思う。
- (6) 1. 女性 2. 40代 3. ブラジル 4. 法要儀式と、そこに関わる人たちに興味があった。 5. この取組みは素晴らしいと思う。もっと曹洞宗に多くの外国出身者が増えれば良いと思う。
- (7) 1. 女性 2. 50代 3. アルゼンチン 4. 禅の教え、生き方で世の中の手伝いをしたいと思った。 5. このプロジェクトに感謝します。アルゼンチンでは法衣類は手に入らないので、このような機会は禅堂修行者にとって非常にありがたいことです。
- (8) 1. 男性 2. 60代以上 3. フランス 4. 弟子丸老師から続く坐禅修行は、とても神聖であるし、身心を良くしてくれる。 5. ご援助に感謝します。
- (9) 1. 男性 2. 30代 4. イタリア 4. グワレスキー泰天老師の教えのすばらしさ、曹洞宗の法要進退の美しさに惹かれた。 5. このような活動に感謝します。助け合いの輪がもっともっと広がってゆけば素晴らしいと思います。
- (10) 1. 男性 2. 30代 4. コロンビア 5. 沢木興道老師、内山興正老師の教えから生きる上での禅の修行に感化された。 6. このような活動に感謝しています。コロンビアのような国では見つけられないものが多いので、私たちのような状況の修行者には非常に助けになります。
- (11) 1. 女性 2. 40代 3. アメリカ 4. 坐禅修行、正法眼蔵の生死の教えから 5. 僧堂修行を続ける為に、ありがたいお布施をいただいた様に感じました。心から感謝します。
- (12) 1. 男性 2. 50代 3. ドイツ 4. 沢木興道老師やその弟子達の本を読んでから禅に興味を持った。 5. ありがとうございます。サイズも合う良いものをいただき、安居中の私たちにとって経済的にも助かりました。

動 静 報 告 2023年1月～12月

1月31日	役員会（総会準備・引継）	檀信徒会館 梅の間
2月9日	総会・懇親会	東京都・大龍寺
2月14日	新旧会長本山拝登・交代挨拶	大本山永平寺
2月18日	新旧会長本山拝登・交代挨拶	大本山總持寺
3月	会報短信発送	
6月7日	役員会	檀信徒会館 梅の間
6月19日	事務局資料引継ぎ	愛知県・地藏寺
10月16日	役員会	檀信徒会館 萩の間
11月7日	両大本山ワークショップ仏教講演会	大本山永平寺
11月8日	両大本山ワークショップ仏教講演会	大本山總持寺
11～12月	会報編集	

ハワイ・マウイ島山火事救援募金報告

2023年8月8日、アメリカ合衆国ハワイ州マウイ島において、同月初旬に発生した山火事が強風によって広がり、西部のラハイナをはじめとして壊滅的な被害をもたらしました。97人がお亡くなりになられ、約2200棟の建物が全半焼し、避難生活を余儀なくされている方がたも多く、影響の長期化が懸念されています。

この山火事で、ラハイナ浄土院(浄土宗)、ラハイナ本願寺(浄土真宗本願寺派)、ラハイナ法光寺(真言宗)の3か寺が焼失するという事態に見舞われました。この山火事被害に対しまして会員の皆さまに支援金のお願いを申し上げたところ、2,246,000円が別掲の皆さまより寄せられております(2023年10月10日現在)。

この支援金は、曹洞宗宗務庁教化部国際課と連携し、マウイ島被災地での救援・支援活動に使われます。

10月に行われましたハワイ国際布教120周年記念行事の際に支援金の一部を、マウイ満徳寺平沢智樹国際布教師に南原一貴副会長より手渡し、マウイ仏教連盟会長ワイルク本願寺の村上信海先生へお届け願いました。本年末に受付を一時停止し、集計の後にマウイ仏教連盟に送金する予定となっておりますので、送金後に改めましてご報告申し上げます。

引き続き皆さまの温かいご支援を賜りますようお願い申し上げます。



マウイ島山火事復旧支援募金納入者ご芳名

北海道	定光寺	大道光肇	茨城県	鏡徳寺	神奈川県	大船観音寺	静岡県	医王寺	南原一貴
北海道	薬王寺	田中清元	茨城県	龍泉院	神奈川県	大本山總持寺	静岡県	内山温子	
北海道	興禅寺		栃木県	松林寺	神奈川県	永明寺	愛知県	妙巖寺	
北海道	長福寺	長尾龍心	群馬県	祥雲寺	神奈川県	貞昌院	愛知県	神藏寺	
北海道	明光寺		群馬県	長年寺	神奈川県	黙仙寺	愛知県	永沢寺	岡島博司
青森県	大乘寺		群馬県	長楽寺	神奈川県	岩泉寺	愛知県	長松院	篠田一法
岩手県	廣養寺	平井正道	群馬県	東善寺	新潟県	養廣寺	愛知県	靈岩寺	
宮城県	輪王寺		群馬県	釈迦尊寺	新潟県	大蓮寺	京都府	苗秀寺	大谷俊定
宮城県	松源寺	東海泰典	群馬県	林昌院	新潟県	法藏寺	京都府	祥雲寺	中小路岡道
宮城県	城國寺	菅原研州	群馬県	神守寺	新潟県	雲洞庵	大阪府	吉祥院	
宮城県	皆伝寺	天野宏雄	群馬県	昌雲寺	新潟県	大榮寺	大阪府	大黒寺	
宮城県	寿昌院	山田宗雄	埼玉県	東榮寺	富山県	明禅寺	島根県	松源寺	佐瀬宏洋
宮城県	国分尼寺		埼玉県	円通寺	石川県	大乘寺	岡山県	洞松寺	鈴木聖道
宮城県	功岳寺		埼玉県	関東管区教化センター	長野県	桃源院	広島県	禅昌寺	横山泰賢
宮城県	円満寺	館寺規弘	埼玉県	見光寺	長野県	天周院	広島県	聖光寺	田中哲彦
秋田県	長慶寺	深川典雄	埼玉県	長光寺	長野県	興龍寺	広島県	道心寺	五十嵐靖美
秋田県	補陀寺	大山陽堂	埼玉県	松林寺	長野県	北信越管区教化センター	愛媛県	四国管区教化センター	
秋田県	松庵寺	渡邊紫山	千葉県	真光寺	長野県	廣澤寺	高知県	願成寺	伊藤祐司
秋田県	満勝寺	佐々木正悦	千葉県	宗胤寺	静岡県	梅林院	長崎県	青眼寺	水町宗仁
秋田県	乗福寺	中泉俊亮	千葉県	駒澤大学内	静岡県	宗徳院	長崎県	妙本寺	吉谷大憲
山形県	慶松寺		千葉県	観音寺	静岡県	重林寺	長崎県	正應寺	柴田賢一
山形県	持地院		千葉県	長興院	静岡県	成願寺	長崎県	観音寺	
福島県	常円寺	阿部光裕	東京都	宗参寺	静岡県	冷泉寺	熊本県	東向寺	
福島県	醫王寺	村上徳栄	東京都	岩井院	静岡県	元長寺	大分県	松屋寺	藏山大頭
福島県	石雲寺	葉貫成悟	東京都	萬福寺	静岡県	一乗寺	宮崎県	善栖寺	野田素裕
福島県	昌建寺	秋央文	神奈川県	正翁寺	静岡県	信香院			
福島県	長泉寺	石月聰明	神奈川県	最乗寺	静岡県	増善寺			

(敬称略)

2024年 SOTO禅インターナショナル 総会・講演会のお知らせ

日程／2024年3月4日(月)

15時より 定例総会

16時(総会后)より 特別講演「フードロスと料理」
講師 杉山絵美氏(料理家)

17時より 懇親会

会場／檀信徒会館(東京グランドホテル) 3F 桜の間



講師：

杉山絵美

Emi Sugiyama

料理家

ライフスタイルナビゲーター

STEP inc. 代表取締役社長

FOOD LOSS BANK 共同創業者

日本MICE協会理事

芸術家の家系に生まれる。慶應義塾大学卒業後、イギリスに留学。英国王室御用達である、コンスタンス・スライ・フラワースクールにてディプロマ取得。隣接されていたカンパナフィニシングスクールにてエンターテインメントとクッキングを同時に学ぶ。その後ロンドンにてケネス・スターナー(英国王室御用達)に師事し、クイーンエリザベス主催の晩餐会の装飾のアシスタントなどを経験。

帰国後はクリスチャン デイオールに広報担当として勤務。数々の斬新なPR戦略によるイベントを企画。日本におけるブランドのイメージ構築に大きく貢献する。2000年、自身がモデルとなったファッション業界を舞台にした連続ドラマ「ブランド」(フジテレビ木曜22時 今井美樹がデイオールの広報部長役として主演)が放映され大きな話題を呼ぶ。2005年に独立し、ラグジュアリーブランドを扱うPR エージェンシーSTEP inc.を設立。ファッション、グルメ、旅、ラグジュアリーライフスタイルのPRを手がける。

また、世界中を食べ歩いて研究したレシピをもとに料理教室とフラワースクールを開催。簡単にできて、おいしく、おしゃれなレシピが流行に敏感なセレブリティたちの間で人気を呼ぶ。

2018年からマリ・クレールにてレシピ連載をスタートし、2019年には東京のレストランを紹介する連載「東京ダイニングアウト」をスタート。2020年、日本ガストロノミー学会とミールレによる「トップシェフのおうちレシピ」に料理家として参加。Oisixでプロデュースしたサラダミールキットとヴィーガンミールキットが発売直後に完売し、初のヴィーガンミールキットのヒット商品となる。

2020年秋、日本ガストロノミー学会会長とともに株式会社FOOD LOSS BANKを設立。フードロス食材有効活用したレストランやホテルのメニュー開発、スイーツやケータリングのプロデュース、次世代教育など活動の幅を広げる。FOOD LOSS BANKの活動が評価され、2021年JAPAN TIMESサステナブルアワード特別賞受賞。

VOGUE、マリ・クレール、VERY NAVY、mimollet、婦人公論、プレシャス、e-gohanなどで多数の料理ライフスタイル関連の連載をもつ。

2023年、初となるレシピ本を「おうちでつくるセレブごはん」(中央公論新社)から出版。

両祖父は文化勲章受賞の日本画家の杉山寧と建築家の谷口吉郎、叔父に建築家の谷口吉生、作家の三島由紀夫。

※会員の皆様には、別途郵送いたしました総会
開催のご案内に同封の返信はがきにて、出欠
のご返信をお願いいたします。

【問い合わせ先】S Z I 事務局 舘寺

E-mail kikutatedera@gmail.com

TEL 022-382-3450

北アメリカ国際布教100周年記念大授戒会の様子

(2022年11月16～20日 カリフォルニア州ロサンゼルス 禅宗寺)

